



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社マースグループホールディングス  
コード番号 6419 URL <https://www.mars-ghd.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松波 明宏  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 高橋 文治 TEL 03-3352-8555  
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 2024年12月10日  
決算補足説明資料作成の有無：無  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	25,552	47.3	7,996	37.2	8,470	34.3	5,124	17.6
2024年3月期中間期	17,349	131.3	5,826	575.4	6,308	426.8	4,356	427.9

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 5,165百万円 (△20.4%) 2024年3月期中間期 6,486百万円 (338.4%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	281.58	—
2024年3月期中間期	260.69	259.34

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期中間期	87,000	76,652	88.1	4,155.16
2024年3月期	83,956	71,254	84.9	3,975.65

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 76,652百万円 2024年3月期 71,242百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	60.00	—	90.00	150.00
2025年3月期	—	120.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	75.00	195.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,800	14.3	12,200	4.3	13,100	4.8	8,200	△4.5	447.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期中間期	22,720,000株	2024年3月期	22,720,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	4,272,440株	2024年3月期	4,800,290株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年3月期中間期	18,199,024株	2024年3月期中間期	16,710,353株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間連結貸借対照表 .....	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	6
中間連結損益計算書 .....	6
中間連結包括利益計算書 .....	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、インバウンド需要の持続的な増加、雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復基調で推移しました。その一方で、ウクライナや中東地域等の地政学的リスクによる原材料価格の高騰、歴史的な水準の円安の進行、人手不足等に起因する物価上昇により個人消費への影響が懸念されていることから、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループはアミューズメント関連事業、スマートソリューション関連事業、ホテル・レストラン関連事業の各事業を通じてお客様の「満足」を勝ち取るために新たな付加価値の追求をしております。

この結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高255億52百万円（前年同期比47.3%増）、営業利益79億96百万円（同37.2%増）、経常利益84億70百万円（同34.3%増）、親会社株主に帰属する中間純利益51億24百万円（同17.6%増）となりました。

なお、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益は、すべてにおいて前年を上回り、当中間連結会計期間の業績は過去最高を更新しました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

#### [アミューズメント関連事業]

アミューズメント関連事業の主要販売先であるパチンコ業界では、2024年7月の新紙幣発行に伴い、パチンコホールにおける周辺設備の更新需要が高まりました。また、パチンコホールではスマート遊技機の導入が進み、特にスマートパチスロ増台のための改装工事が活発化する等、パチスロ市場におけるスマートパチスロの普及率は40%を超えました。一方、パチンコ市場においては、スマートパチンコの普及率は数%程度に留まっておりますが、新たな規制に対応した遊技機の導入が始まったことから今後の市場拡大が期待されています。

このような市場環境の中、当社グループではスマート遊技機専用ユニットを中心に、少人数でホール運営が可能なパーソナルPCシステム（以下「パーソナル」）及び遊技データ等の収集・AI分析が可能な「マースユニコン」等、豊富なラインナップを武器にトータルシステムでの提案・販売を行い、特にスマート遊技機専用ユニットの販売は好調に推移いたしました。また、新紙幣対応に関しては、全国に広がるメンテナンス網を通じてソフトウェアのバージョンアップを迅速に実施するとともに大手チェーンを中心に周辺機器の入れ替えを促進してまいりました。さらに、7月には全国主要都市で5年ぶりとなる「2024マース新製品発表展示会」を開催し、新製品『E V O A L L（エヴォール）シリーズ』を発表いたしました。今後は、新製品を中心としたシステム販売を展開してまいります。

当中間連結会計期間におけるプリペイドカードシステム（パーソナルやスマート遊技機専用ユニットを含む）の売上実績は50店舗、導入（実稼働）店舗数は累計1,436店舗（市場シェア23.8%）となりました。

この結果、アミューズメント関連事業の売上高は、216億74百万円（前年同期比59.5%増）、セグメント利益は79億53百万円（同38.2%増）となりました。

#### [スマートソリューション関連事業]

スマートソリューション関連事業は、AI、ロボット、高度なデータ処理等の技術やRFIDの活用により、現在のシステムと情報システムを融合し、作業の効率化や人材不足といった社会的課題を解決する製品やサービスを生み出し続けていくことを使命としております。

主要販売先となる自動認識システム業界は、バーコードやRFIDを活用して製品の追跡や在庫管理の効率化を図ることができるため、小売業や製造業など幅広い分野で活用されており、今後も新技術の導入や用途の拡大等、市場の更なる成長が期待されております。

このような状況の中、当社子会社の株式会社マーストークンソリューションでは、需要の拡大が見込まれる画像処理分野において新製品の開発に取り組んでまいりました。新製品の「V i s A I（ビズアイ）」シリーズは、従来目視や手作業で行われていた業務を省人化・半自動化し、安定した作業精度の向上と業務の効率化を実現するAI画像認識システムで、今後の販売に注力してまいります。

当社子会社の株式会社マースウインテックでは、IoT冷蔵庫販自販機や無人チェックイン端末等、省人化・無人化を実現するシステム「Infinity Station」シリーズを開発・販売してまいりました。

この結果、スマートソリューション関連事業の売上高は、26億50百万円（前年同期比2.3%減）、セグメント利益は2億18百万円（同7.1%減）となりました。

## [ホテル・レストラン関連事業]

ホテル業界ならびに外食業界は、社会経済活動の正常化により観光や外食の需要が回復に向かっており、特に円安の影響を受けてインバウンド需要が大幅に拡大していることから、回復基調で推移しました。しかしながら、依然として深刻な人手不足や原材料価格の高騰による運営コストの増加、観光客の大幅な増加で発生するオーバーツーリズムが課題となっており、今後の対応が求められています。

このような状況の中、「マースガーデンホテル博多」及び「マースガーデンウッド御殿場」では、お客様に寄り添った最高のホスピタリティの提供、マースガーデンクラブ会員獲得の強化やSNSを活用したマーケティング戦略を実施し、ロイヤルカスタマーの獲得に注力してまいりました。また、ダイナミックプライシングを活用した価格戦略を展開し、収益の向上に取り組むとともに、アップセルやクロスセルを通じた客単価の向上にも取り組んでまいりました。さらには、旅行代理店に対する営業活動を進め、集客に向けた販路の強化に努めてまいりました。

レストラン事業では、東京銀座エリアの「銀明翠GINZA」及び「銀座松月」を中心に周年記念特別プランの販売やアップセルを積極的に行い、質の高いおもてなしと料理を通じて、ブランド力の向上に努めてまいりました。

この結果、ホテル・レストラン関連事業の売上高は、12億27百万円(前年同期比17.0%増)、セグメント利益は4百万円(前年同期は49百万円のセグメント損失)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

当中間連結会計期間末の総資産は870億円となり、前連結会計年度末と比較して30億43百万円増加いたしました。

流動資産は519億47百万円となり、前連結会計年度末と比較して26億98百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、現金及び預金が47億71百万円増加し341億24百万円となりました。

固定資産は350億53百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億45百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、建物及び構築物(純額)が9億24百万円増加し60億1百万円となりました。

流動負債は80億25百万円となり、前連結会計年度末と比較して23億1百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、支払手形及び買掛金が12億2百万円減少し31億36百万円、未払法人税等が12億2百万円減少し24億65百万円となりました。

固定負債は23億22百万円となり、前連結会計年度末と比較して53百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、繰延税金負債が1億9百万円減少し7億49百万円となりました。

純資産は766億52百万円となり、前連結会計年度末と比較して53億98百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、利益剰余金が35億11百万円増加し616億13百万円、自己株式が10億70百万円減少し△85億13百万円となりました。

自己資本比率は88.1%となり、前連結会計年度末と比較して3.2ポイント増加いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は341億24百万円となり、前連結会計年度末と比較して47億71百万円増加いたしました。

当中間連結会計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は68億12百万円の収入(前年同期は38億13百万円の収入)となりました。主な要因は、税金等調整前中間純利益75億32百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は11億68百万円の支出(前年同期は5億6百万円の支出)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出7億48百万円、投資有価証券の取得による支出4億19百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は8億58百万円の支出(前年同期は18億49百万円の収入)となりました。主な要因は、配当金の支払額16億10百万円等によるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年10月7日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,353,869	34,124,901
受取手形及び売掛金	6,002,812	5,447,365
リース債権及びリース投資資産	420,918	445,185
有価証券	350,035	350,280
商品及び製品	5,051,742	4,450,765
仕掛品	326,269	313,765
原材料及び貯蔵品	6,230,298	5,017,121
その他	1,570,216	1,853,652
貸倒引当金	△57,271	△56,034
流動資産合計	49,248,890	51,947,002
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,077,238	6,001,955
土地	10,007,470	10,007,628
その他(純額)	1,003,762	402,372
有形固定資産合計	16,088,471	16,411,956
無形固定資産		
投資その他の資産	323,054	346,942
投資有価証券	16,600,901	15,907,686
退職給付に係る資産	49,974	58,711
その他	2,104,738	2,532,892
貸倒引当金	△459,126	△205,109
投資その他の資産合計	18,296,486	18,294,182
固定資産合計	34,708,012	35,053,080
資産合計	83,956,902	87,000,083
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,338,627	3,136,190
リース債務	240,783	224,789
未払法人税等	3,667,889	2,465,591
賞与引当金	431,123	468,476
その他	1,648,862	1,730,394
流動負債合計	10,327,285	8,025,440
固定負債		
リース債務	288,543	385,589
役員退職慰労引当金	195,480	172,360
資産除去債務	61,914	62,150
その他	1,829,642	1,701,994
固定負債合計	2,375,580	2,322,094
負債合計	12,702,865	10,347,535

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	9,500,829	10,286,972
利益剰余金	58,102,153	61,613,928
自己株式	△9,584,281	△8,513,427
株主資本合計	65,952,801	71,321,573
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,926,520	4,975,226
退職給付に係る調整累計額	363,216	355,747
その他の包括利益累計額合計	5,289,737	5,330,974
新株予約権	11,497	—
純資産合計	71,254,036	76,652,548
負債純資産合計	83,956,902	87,000,083

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	17,349,633	25,552,506
売上原価	7,642,103	13,340,283
売上総利益	9,707,529	12,212,223
販売費及び一般管理費	3,880,983	4,215,866
営業利益	5,826,545	7,996,356
営業外収益		
受取配当金	392,633	447,210
その他	89,453	38,845
営業外収益合計	482,086	486,055
営業外費用		
為替差損	—	12,282
営業外費用合計	—	12,282
経常利益	6,308,632	8,470,129
特別利益		
投資有価証券売却益	81,267	27,194
特別利益合計	81,267	27,194
特別損失		
投資有価証券評価損	—	964,955
特別損失合計	—	964,955
税金等調整前中間純利益	6,389,900	7,532,368
法人税、住民税及び事業税	2,211,609	2,347,038
法人税等調整額	△177,886	60,780
法人税等合計	2,033,723	2,407,819
中間純利益	4,356,177	5,124,549
親会社株主に帰属する中間純利益	4,356,177	5,124,549



(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	4,356,177	5,124,549
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,108,842	48,705
退職給付に係る調整額	21,297	△7,468
その他の包括利益合計	2,130,140	41,237
中間包括利益	6,486,317	5,165,786
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	6,486,317	5,165,786

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	6,389,900	7,532,368
減価償却費	282,893	347,053
引当金の増減額(△は減少)	18,665	△241,021
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	—	△8,737
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	12,695	—
受取利息及び受取配当金	△392,848	△447,960
投資事業組合運用損益(△は益)	△17,757	△2,118
投資有価証券売却損益(△は益)	△81,267	△27,194
投資有価証券評価損益(△は益)	—	964,955
売上債権の増減額(△は増加)	△207,867	555,447
リース債権及びリース投資資産の増減額(△は増加)	24,281	△52,000
棚卸資産の増減額(△は増加)	△3,493,777	1,826,657
営業貸付金の増減額(△は増加)	△130,021	50,514
仕入債務の増減額(△は減少)	1,665,417	△1,202,437
リース債務の増減額(△は減少)	△42,278	81,051
その他	292,737	291,427
小計	4,320,772	9,668,006
利息及び配当金の受取額	392,848	447,960
法人税等の支払額	△900,449	△3,303,604
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,813,171</b>	<b>6,812,362</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△241,544	△748,174
投資有価証券の取得による支出	△567,910	△419,830
投資有価証券の売却による収入	414,815	56,872
その他	△112,287	△57,109
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△506,927</b>	<b>△1,168,242</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△113	—
自己株式の売却による収入	2,400,555	760,898
配当金の支払額	△573,860	△1,610,448
新株予約権の発行による収入	23,125	—
その他	—	△9,250
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,849,706</b>	<b>△858,800</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	24,837	△14,287
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,180,787	4,771,032
現金及び現金同等物の期首残高	22,700,571	29,353,869
現金及び現金同等物の中間期末残高	27,881,359	34,124,901

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	スマート ソリューション 関連事業	ホテル・ レストラン 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	13,586,221	2,714,125	1,049,285	17,349,633	—	17,349,633
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	294,583	42,070	15,238	351,892	△351,892	—
計	13,880,805	2,756,195	1,064,524	17,701,525	△351,892	17,349,633
セグメント 利益又は損失 (△)	5,755,855	234,897	△49,353	5,941,399	△114,853	5,826,545

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△114,853千円には、セグメント間取引消去7,111千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用等、△121,965千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自2024年4月1日 至2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	スマート ソリューション 関連事業	ホテル・ レストラン 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	21,674,011	2,650,852	1,227,643	25,552,506	—	25,552,506
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	269,205	36,379	22,337	327,921	△327,921	—
計	21,943,216	2,687,231	1,249,980	25,880,428	△327,921	25,552,506
セグメント利益	7,953,688	218,283	4,111	8,176,083	△179,726	7,996,356

(注) 1. セグメント利益の調整額△179,726千円には、セグメント間取引消去6,974千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用等、△186,701千円が含まれております。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「アミューズメント関連事業」セグメントの定義の見直しを行った結果、「アミューズメント関連事業」セグメントに含まれていた株式会社マースウインテックの事業の一部を「自動認識システム関連事業」セグメントに含めて記載する方法に変更しております。

それに伴い、報告セグメントの名称を「自動認識システム関連事業」から「スマートソリューション関連事業」に変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。